

# あかるい生田

## 生田地区に市民が気軽に集える 社会教育施設を

5万人のまちに  
ひとつもない!

### 生田出張所には会議室は一ヶ所だけ これではあまりにも足りません

生田出張所を改装するといわれたのに

もともと生田地区には市民館・図書館分館を建設する予定でした。しかし、阿部市長の「行財政改革」で「白紙」になってしまい、住民の皆さんから「気軽に集まれる場所がどうしてもほしい」と強い希望が出されてきました。昨年、生田出張所の届出窓口を区役所に統合する案が出されたとき、「会議室などを開放して、市民の活動スペースを作る」という市の提案に、地元の町会の皆さんは「それなら、業務を縮小するのはやむをえない」と了承して

いました。ところが、三月議会予算審査特別委員会で、井口まみ市議は「市民が利用できる広さはどのくらいか」とただすと、三浦総合企画局長は次のように答弁しました。

ところが、三月議会予算審査特別委員会で、井口まみ市議は「市民が利用できる広さはどのくらいか」とただすと、三浦総合企画局長は次のように答弁しました。



三月議会で質問する井口市議

2010年3、4月  
市議会報告  
日本共産党  
市会議員  
井口まみ  
(発行)  
日本共産党市会議員団  
川崎市川崎区宮本町1  
電話 200-3360  
FAX 245-4140  
http://www.iguchi-mami.jp

#### 生田出張所の改修方針

- 一階入り口左側「情報コーナー」  
↓「フリースペース」 三八㎡
  - 二階第1会議室  
↓「会議室」 四五㎡
  - 二階出張所事務室  
↓「作業スペース」 四二㎡のなかに  
「打ち合わせスペース」十人程度
- ※3階は開放しない。  
利用方法はこれから検討する

井口市議は「三階の大会議室をパーテーションで仕切って使わせてほしい」と重ねて求めましたが、三浦局長は「町会連合会や社会福祉協議会などで使っているので、開放できない」と答えました。

#### 生田地区は社会教育施設がひとつもない

会議室はたった一室というところに「あまりにもひどい」という声が上がっています。生田地区には、市民館のように、市民がサークル活動や文化活動に使える社会教育施設がひとつもあ

## 寺尾台公園脇の歩道に 排水用のマスが設置

「雨が降ると、寺尾台公園の脇の歩道に水がたまって通れない」という相談が、井口まみ市議に寄せられました。さっそく雨の日に現地に行ってみると、公園のなかから水がどんどん流れ出て、歩道が池のようになっています。さっそく建設センターに連絡すると、しばらくして、その水を、地下の雨水管におとす雨水枡が設置されました。この歩道は公園の東側ですが、西側にも水がたまるこのことで、対応をお願いしています。



雨の日の歩道

新設された雨水枡

りません。井口市議は教育長に対し「改めて整備をするべきではないか」とただしました。木場田教育長は「学校施設も地域に開放している」と述べましたが、生田地区で開放している教室形式の学校施設は、生田中の特別創作活動センター(三田)と、東生田小の特別活動教室だけ(音楽室はほかの学校も開放している)で、広大な地域の皆さんが気軽に使える状況ではなく、まったく整備する気がないことが明らかになりました。井口市議は、「人口が五万人もいて、ひとつも施設がない生田地区に社会教育施設を作ること強く要望し、引き続き取り上げる」と述べました。

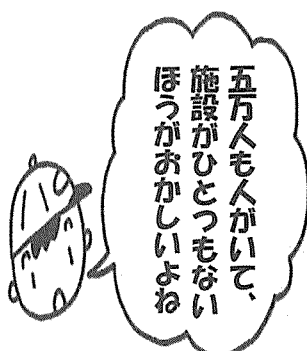
#### 人口五万人の都市で

生田出張所管内の人口は、約五万四千人です。同じ人口の都市を調べてみました。(下表)

埼玉県幸手市 人口約5万5千人  
公民館5つ、勤労福祉会館、  
コミュニティセンター

長野県諏訪市 人口約5万1千人  
公民館4つ、  
市民文化センター、市民会館

神奈川県寒川町 人口約4万7千人  
公民館3つ、町民センター



川崎市議会  
井口市議

# 市民の命の水は、手離してはいけない 自己水源《生田浄水場》を残すことが市の責任

「多摩区の地下水くみ上げと生田浄水場の廃止をやめ、継続を」と求める声がどんどん強まっています。井口まみ市議はその声をうけ、3月議会予算審査特別委員会で「自己水源を残すことが市民の命の水を守る道」と迫りました。この質問の中で、いくつかの重大な問題がうきぼりになりました。

## 水利権は手離したら戻らない

各自自治体が川から水をとるときには「水利権」という、川の管理者が決めた量しか取水することができません。川崎市の自己水源のひとつである相模湖は、国土交通省が管理者で、おりしも2年後が水利権の更新です。川崎市は現在、四二万立方メートルの水利権を持っています。生田浄水場の廃止などを決めた「川崎市水道事業再構築計画」で自己水源の水量を二八万立方メートルに定めたため、国から「二八万に減らす」と言われる可能性が生まれています。水利権は一度減らされたら二度と増やすことはできないため、この先自己水源を増やしたいと思ってもできなくなるという重大な問題です。

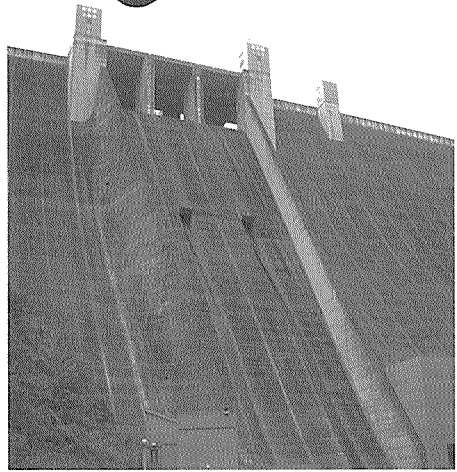
井口市議は、「相模湖の水も他都市に誇れるきれいな自己水源。自然流下で臨海部まで流れるなど優れた水源を手離してはならない」と質問。栗冠水道局長は「四二万立方メートルを確保するよう協議する」「できなければ他の方法を考えて、水を確保する」と、努力するとはしたものの、水利権の減量を否定できませんでした。

## 生田浄水場の井戸水は水利権がない

いっぽう、生田浄水場の水源である多摩区の井戸水は、水利権などの問題がありません。井口市議は、「現状では、ますます生田浄水場の存続が必要になっている」と指摘しました。

## 自己水源を減らしてまで水質が悪く高い「企業団」の水を買うわけは

「再構築計画」では、自己水源の水を減らして、市民に必要な水の四四％を「神奈川県内広域水道企業団」から買うことにしています。水源は、小田原市の酒匂川の下流、飯泉取水堰で、川崎からは五六キロも離れており、水質も悪く、浄水コストもとても高い水です。そんなところから水を運ぶ理由を水道局のホームページではこう書いています。「企業団を設立した各水道事業者（川崎市もそ



神奈川県内広域水道企業団が国と作った「宮ヶ瀬ダム」。当時東洋一といわれた巨大なダムで、総工費3900億円。当時大きな反対運動もあった。

## 「企業団」の経営のあり方を見直しを

全国でむだな公共事業、天下り団体の見直しが課題になっています。ここ神奈川県でも決して例外ではありません。市民の大切な自己水源を手離して、むだな大型開発のツケを払うことが市民の命の水を守ることが自治体の使命ではないのか、それが問われています。

の一人）は、企業団の水道水の卸売りの水量にかかわらず、企業団が水源開発や水道施設の整備に要した費用を支払う義務があります。だから減らせないというわけです。井口市議は質問で、「自己水源をなくするのは市民にとってメリットがあるからではなく、過去の設備投資、しかもめっちゃくちゃな過大投資のツケをまわされているということだ」「巨大な施設はいずれ莫大な補修費が必要になり、企業団の水道料金があがり、それがそのまま市民に押し付けられる」と、この先、川崎市の意思にかかわらず、水道料金値上げの可能性が大きいことを指摘しました。

## 「企業団」のあり方を見直し

井口市議は、「今手を打つべきは、自己水源の削減ではなく、企業団のあり方を見直すこと」とし、「川崎からその意思を発信せよ」とただしました。

栗冠水道局長は「現在『神奈川県内水道事業検討委員会』が設立され、県内の水道の広域化について議論している」と答え、議論の場があることを示唆しました。

全国でむだな公共事業、天下り団体の見直しが課題になっています。ここ神奈川県でも決して例外ではありません。市民の大切な自己水源を手離して、むだな大型開発のツケを払うことが市民の命の水を守ることが自治体の使命ではないのか、それが問われています。

## 都市計画審議会でも 多摩美特別緑地保全地区を指定

三月二四日、川崎市都市計画審議会は、川崎市内の四つの地区について、あらたに特別緑地保全地区に指定することを決定しました。このなかで、七年まえから地元の皆さんが「貴重な緑を守ってほしい」と運動し、ついに市の基準を変更して保全した緑地が含まれていました。

都市計画審議会委員である井口市議も、審議会での決定に賛成しました。市の保全基準を下げてこれまで川崎市が保全する緑地は、まず二平方メートル以上のまとまった樹林

## 7年かけて緑地を保全 市民の力で市政を動かした！



市民の力で守った、多摩美特別緑地保全地区(写真上)。3月22日には、記念の緑のウォークがおこなわれ、130人が参加した。この中に井口市議も。(写真下)



二〇一〇年三月議会での日本共産党の活動は、別紙の「明るい川崎」でご報告しています。ご意見、ご感想をお寄せ下さい。